

BCP（事業継続計画）の作成を応援する コラボ動画作成までの軌跡



関西大学社会安全学部・近藤ゼミでは、このたび、「Takky芥川」さんのBCP作成をお手伝いさせていただきました。そして、施設長の田中さんにインタビューして、ミニ解説と共に“想い”を伝える動画を作成しました。

作成：関西大学社会安全学部(近藤ゼミ)



打合せの様子（Takky芥川さんにて）



動画撮影の様子（関西大学キャンパスにて）

BCP作成ミーティング

被害想定や参集基準、応急体制の検討の他、ライフラインが遮断した場合の代替案などに関してアイデア出しをしました。トータルで10時間ほどかけて完成させました。災害時には、利用者もスタッフもたがいに「無理をしない・無理をさせない」という理念を堅持することが重要であると感じました。

動画撮影

BCP作成にのぞむ人たちにエールを贈るために、Takky芥川の田中さんにインタビューをおこないました。田中さんは、BCPの作成に対して“前向き”な思いで取り組むことを推奨されています。完璧なものを作ろうとして手が止まるよりも、ステップ・バイ・ステップで体制を強化し続けることが大切だとおっしゃっていました。

今回作成した動画はこちらからご覧いただけます！
（近藤ゼミの日々の活動ブログも公開中）



空 木

UTSUGI
◆◆ TAKATSUKI ◆◆

へのお問い合わせは

072-674-7166

高槻市介護保険事業者協議会事務局まで

高槻市長寿介護課内（受付時間：平日8時45分～17時15分）

編集後記

年始の地震、高槻も結構揺れましたね。私は自宅にいたのですが、ゆっくりとした長い揺れでめまいがしているのかと思いました。揺れがおさまった後も、ずっと揺れているような…。安否確認のため、利用者様に連絡を入れると、皆さん大きな怪我も事故もなかったのですが、その後の年始からの連日のニュースで精神的にまいってしまった方も数名おられました。防災対策とともに、そういった離れた地域でも起こりうる気持ちの不安を少しでも減らせるような取り組みを増やしていきたいなと思います。 小林里佳



高槻市介護保険事業者協議会
ホームページにアクセスしてみてください！！

具体的にどんな活動をしているのかわからない…、部会など参加してみたいけど、どんなものがあるのかわからないという方は、QRコードからHPにアクセスしてみてください。

制作・発行 情報活動誌『空木』発行委員会 2024.1

空 木

UTSUGI
◆◆ TAKATSUKI ◆◆

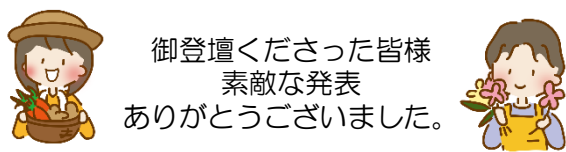
Vol.19

令和6年1月1日に発生した能登半島地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、ご遺族の皆様には謹んでお悔やみを申し上げます。また、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

高槻市 介護等実践発表会

第4回

令和5年11月21日 開催報告



「大活躍！80歳職員」



総合介護福祉施設 和朗園 中野 一樹氏

65歳以上で働きたい方も多い。直接介護以外の仕事もたくさんあるので助かっている。職員のサポートにもなっている。歳を多く重ねている分、知っていることが多い。利用者の心のケア、傾聴。年齢が近いのでわかり合えることが多く、若い職員ではかなわない心の距離の近さがある。

【講評】
水谷先生：高齢者が雇用されて働いてくださるのはいいこと。それを積極的に取り入れていること、この先とても大事になってくると思う。仕事の内容の発表もあったので、こんな業務を任したらいいのかなど参考になったのではないかなと思う。

三浦先生：65歳以上の方が和朗園でたくさん働いているのがすごいなと思った。男女比を聞いて男性の方が多く、閉じこもりがちな男性が多い中、良かったなと思う。

「屋上ガーデンの取り組み」



介護老人保健施設ケアイ 森垣 俊造 氏

おぼつかない計画で始めた農園でしたが、試行錯誤して取り組んでいった結果、連携強化に繋がりました。利用者様と職員の笑顔が増えるとともに、自発的に行動してくれる職員も増えました。

【講評】
水谷先生：コロナで職員が疲弊している中、新しい取り組みをしたのが素晴らしい。考えたきっかけが「利用者さんが楽しんでもらえるのでは」というのが本当にすごい。老健の強みを活かしたという内容や地域の方との交流がとてもよかったです。

三浦先生：老健の運営基準では地域との交流とはあるが実際のところがわからない。でも今回の発表でそれを知ることができたのでありがたかったです。老健の特性上、地域に戻られると思うのですが、このような取り組みに参加した方たちが地域に戻られた後のことも知りたいなと思いました。

「つながりを作る季節の封筒作り」



Roles 晴耕雨読舎南平台 吉村 知子氏

封筒作りのテーマは、Rolesの庭の植物。封筒作りは社会との繋がり。機能訓練にも繋がっている。庭の植物を収穫して、それを観察しながら、封筒作りをしている。Rolesは役割という意味がある。利用者のみなさんが役割を持って楽しめる場所という思いから、日々に繋がっている。

【講評】
水谷先生：とてもきれいな場所で、利用者さんがいきいきゆったり過ごせる場所だと思いました。収穫して実際に食べて、それを引き出して作品にするということを知ることができた。自己肯定感のUPや意欲の引き出しには、苦心している施設が多いと感じる中、この発表では楽しみをみつけながら、全てに繋がっていく封筒づくりがとても大事な取り組みだと思いました。

三浦先生：心温まる発表だった。封筒を媒体にすることが現代のメール社会の中素晴らしいと思いました。

「介護機器の利活用とノーリフトケアの実現に向けて」



特別養護老人ホーム高槻荘 待場 愛 氏

抱き抱え介助は完全になくなったわけではないですが、介護機器を導入したことで、とても減りました。機械操作のめんどくささや操作にかかる時間よりも介護者の身体的な負担を軽減という方が大切なので、社外用にもホームページに使用方法を載せています。

【講評】
水谷先生：導入して使用していく流れが普通になればいいのかなと思います。内容を聞いていると、高槻荘だけでなく、多くの施設に広めたいという思いが感じられました。導入前と導入途中、導入後の数値化があると感じ取りやすいのかなと思ったので、次回も楽しみにしています。

三浦先生：パワーポイントと動画でより具体的に知ることができました。介護職員がどのように思っているのかを丁寧に聞き取っていて、丁寧に対応・導入されていたので、素晴らしいと思いました。

「塗絵コンクールからの繋がり」



アイケアライフ株式会社 堀 寛久氏

年1回の塗絵コンクールを平成26年から行っている。第1回目は24作品、第9回では55作品が集まった。デイだけでなく、法人の中の他の事業からの参加も増えた。清水包括区域に声をかけたら、非常に協力的で令和5年の開催では地域で18事業所が参加してくださり、100を超える作品になった。地域とのつながりを感じると利用者さんにも言っていた。

【講評】
水谷先生：別の事業所も巻き込んで繋がりを作ったの塗絵。利用者様の可能性を拡大させる取り組みがすごいなと思いました。感銘を受けました。

三浦先生：塗絵コンクールは、少し前に知って広がっていくのを楽しみにしていた。ここまで盛大になっていって応援し甲斐があったなと思う。塗り絵の個性、制作活動からの生きがい、ブログでの掲載をみていると利用者さんのいきいきした顔が見れて、みんなにもみてもらいたいなと思います。

「広がる“学び愛”の輪」



高槻市介護保険事業者協議会防災対策部会 写真左から新崎氏(関大近藤ゼミ)・黒田氏(関大近藤ゼミ)・田中氏(takky)・濱口氏(関大近藤ゼミ)

2018年の大阪北部地震がきっかけで「防災部会」が発足。黒田氏(関西大学社会安全学部近藤ゼミ)：昨年からは祖母がデイサービスに通うようになった。防災部会でデイサービスの人とも交流できると知り、参加するようになった。色々な体験が学びになっている。福祉がより身近なものになった。新崎氏(同ゼミ)福祉と関わる中で本物の情報を得ることができた。介護職の方に対して敬意は持っていたものの、世間で言われている3Kの印象はぬぐえなかった。福祉の人たちと交流する中で温かさを知った。

【講評】
水谷先生：防災対策、日本国民全体の課題。勉強することで乗り越えていけることを高槻市で取り組んでいることが素晴らしい。

三浦先生：北部地震で気付き動いたことがすごい。また学生を巻き込んで取り組んでいることが素晴らしい。色々な取り組み成果を共有してほしい。

令和5年11月3日に『令和5年度 文化の日 市政施行80周年記念式典』が高槻城公園 芸術文化劇場トリシマホールにて開催され、当協議会の北元会長が出席し、高槻市より感謝状を授与されました。



これからもより一層、市民の福祉の向上に努めて参ります。

